

Society 5.0

－ともに創造する未来－

2019年 1月 16日

一般社団法人 日本経済団体連合会

国内

- ◆ 日本初のG20主催
- ◆ 統一地方選・参院選
- ◆ 消費税率引き上げ

国外

- ◆ 米中摩擦
- ◆ B R E X I T
- ◆ 世界各地での反グローバリズム・ポピュリズムの台頭

地政学、地経学的なリスクが高まり、
政治経済の安定した日本への期待が膨らむ

Society 5.0 –ともに創造する未来–

第1章

Society 5.0の目指すもの

1. 人類社会の進展
2. デジタル革新
3. Society 5.0とは
4. Society 5.0のもたらすもの
5. 具体的な社会像 -Society 5.0 for SDGs-
6. まとめ

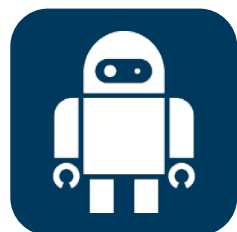
第2章

日本を解き放つアクションプラン

1. 日本の目指すべき方向性
2. アクションプラン
 - (1) 企業が変わる
 - (2) 人が変わる
 - (3) 行政・国土が変わる
 - (4) データと技術で変わる

世界に迫る大きな変化の波

- いま世界には、大きな社会変革につながる「技術的变化」、経済の重心がシフトする「経済・地政学的変化」、地球環境等の問題を踏まえた「マインドセットの変化」など、急激な変化の波が迫っている。



技術的变化

AIやIoTなどのデジタル技術やバイオテクノロジーの革新



経済・地政学的変化

世界経済の中心がアジア（中国、インド、ASEAN）に急シフト
少子高齢化や人口爆発など人口動態の激変



マインドセットの変化

地球環境など世界規模の問題深刻化によるSDGs等への取り組み重視

変化には**リスク**だけでなく**機会**が伴う。

想像力を働かせて未来を切り拓いていくことが重要。

日本の未来は暗くない

世界の変化を活かせる千載一遇のチャンス



技術的变化



IoTの進展により主戦場となるモノの技術に強みがある



経済・地政学的変化



成長するアジアに位置し
欧米とも緊密な関係



マインドセットの変化



「三方良し」「もったいない」
など社会や自然に根差した文化

課題先進国から課題解決先進国へ



山積する課題
今そこにある危機



課題解決の宝庫
社会を変える想像力の源

日本に求められるのは、日本自身が「明治維新」や「戦後復興期」に匹敵する大変革を遂げ、世界の変化を主導すること。

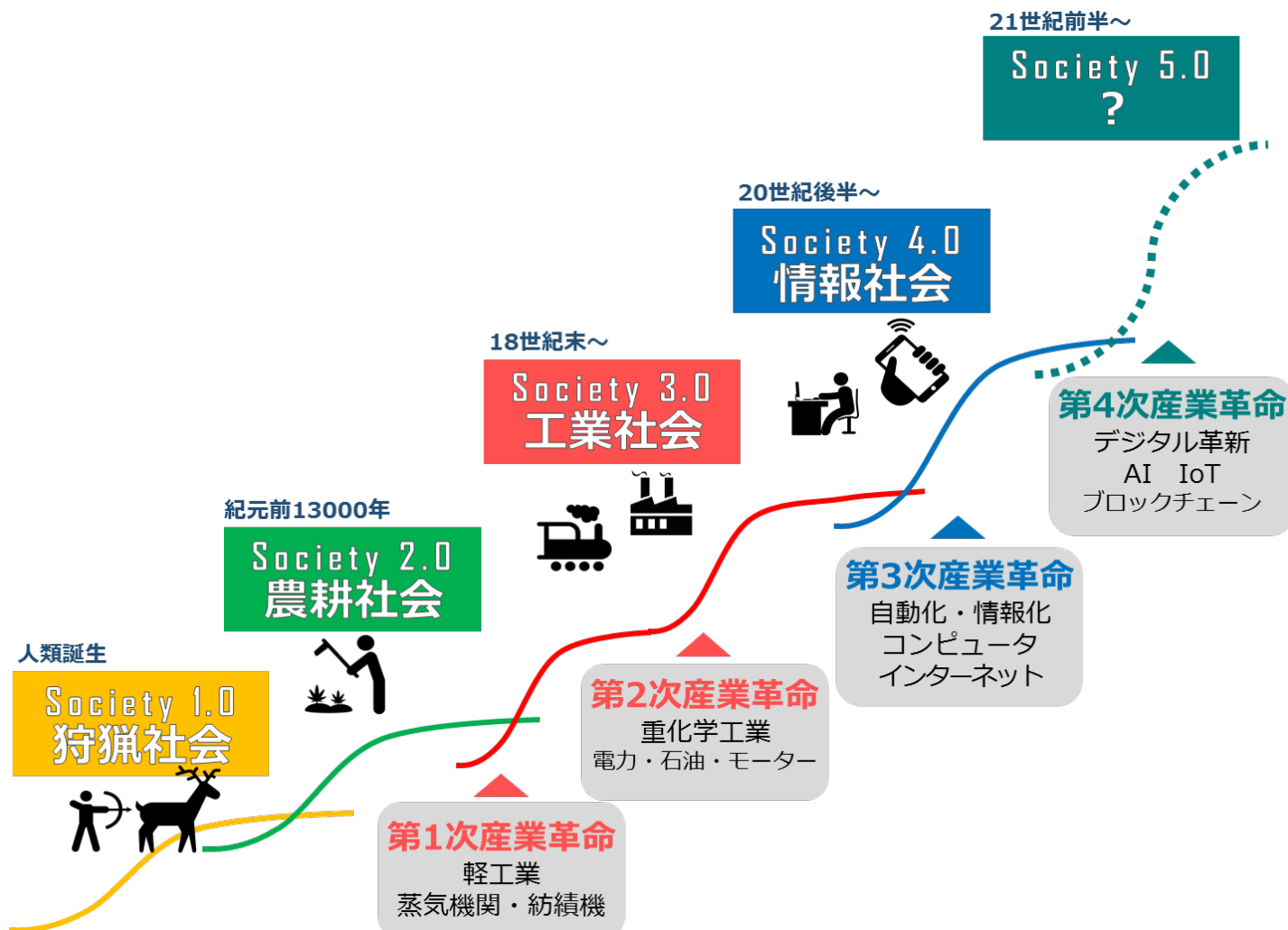
日本が世界に提示する新たな社会のコンセプト「Society 5.0」の実現に向けて取り組みを加速させていくことが必要。

第1章

Society 5.0の目指すもの

情報社会の次の段階へ

- 人類は「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」と発展してきた。
- 今、デジタル革新（デジタル・トランスフォーメーション）をきっかけに第5段階の新たな社会（Society 5.0）への変革のときを迎えている。



デジタル革新の波

- 社会が変化する大きなきっかけとなるのはデジタル革新（デジタル・トランスフォーメーション）である。個人の生活や行政、産業構造、雇用などを含めて社会のあり方が根本から変わる。
- デジタル技術の使い方によっては格差拡大などの影の部分も生じうる。デジタル革新を利用してどのような社会を創っていきたいのかが重要。

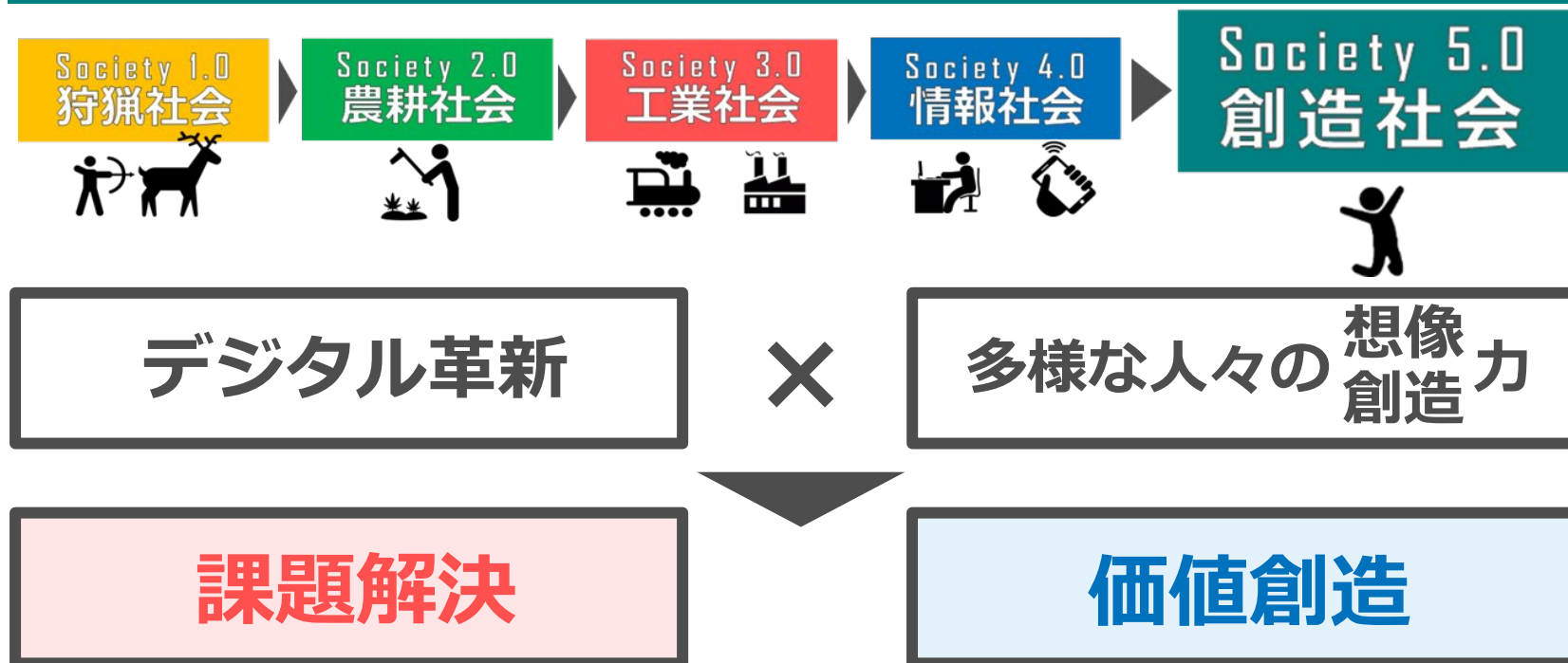
デジタル革新 = デジタル技術とデータの活用が進むことで、個人の生活や行政、産業構造、雇用などを含めて社会のあり方が大きく変わること。
IoTやAI、ロボット、ブロックチェーン等の技術がデータを核に駆動し、社会を根本から変える。

IoT	あらゆるモノがインターネットに接続され、センサーなどからリアルタイムにデータが収集できるようになる。デジタル革新の対象があらゆるモノ・ヒト・コトに広がる。
AI(人工知能)	AIは適切に設計して運用されれば、非常に複雑な問題も解決できる。人間が行ってきた業務の多くは、AIによって自動化することが可能となる。AIの本質は「能力の流通とコモディティー化」である。
ロボット	AIの能力は、ロボットによってフィジカル空間で発揮される。さまざまなモノが知能を有するようになり、社会のスマート化が進んでいく。
分散台帳技術	ブロックチェーンなど分散台帳技術は、効率的な取引や追跡可能性の向上に大きな影響を与える。信用や信頼の新たな形をもたらしうる。

Society 5.0は「創造社会」

- デジタル革新を人々の多様な生活や幸せの追求のために活用すべき。
- 今後、人々には世の中を変える「想像力」と「創造力」が必要。
- **Society 5.0とは創造社会であり、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」である。**

Society 5.0



Society 4.0から5.0への変化

- Society 5.0で目指す社会は、「課題解決・価値創造」「多様性」「分散」「強靱」「持続可能性・自然共生」などがキーワードとなる。
- さまざまな制約から解放され、誰もが、いつでもどこでも、安心して、自然と共生しながら、価値を生み出す社会を目指していく。

～ Society 4.0

Society 5.0 ～

規模拡大
効率性

効率重視からの解放

課題解決・価値創造
“価値を生み出す社会”

均一性

個性の抑圧からの解放

多様性

“誰もが多様な才能を発揮できる社会”

集中

格差からの解放

分散

“いつでもどこでも機会が得られる社会”

脆弱

不安からの解放

強靱

“安心して暮らし挑戦できる社会”

環境負荷大
資源多消費

資源・環境制約からの解放

持続可能性・自然共生
“人と自然が共生できる社会”

制約からの解放を実現していく

● 効率重視からの解放→価値を生み出す社会

これまで：大量生産・大量消費による**規模拡大**と**効率性**、従来のルールや計画の遵守
これから：ひとつひとつのニーズに応え、**課題を解決**し、**価値を創造**すること

● 個性の抑圧からの解放→誰もが多様な才能を発揮できる社会

これまで：標準化されたプロセスに同化した**平均的**な生き方
これから：**多様**な人々が**多様**な才能を発揮し、**多様**な価値を追求

● 格差からの解放→いつでもどこでも機会が得られる社会

これまで：富や情報は一部に**集中**し、格差が拡大
これから：格差を放置せず、富や情報が社会で循環・**分散**

● 不安からの解放→安心して暮らし挑戦できる社会

これまで：自然災害、治安悪化、テロ、サイバー攻撃など**脆弱**性が顕在化
これから：多様化・分散化が進んだ新たな社会基盤により**強靱**性が高まる

● 資源・環境制約からの解放→人と自然が共生できる社会

これまで：**地球環境への負荷**が大きな、**資源多消費型**のモデルに依存
これから：**持続可能**な社会となり、多様な地域で**自然と共生**しながら暮らせる

Society 5.0 for SDGs

- Society 5.0で、生活や産業のあり方は大きく変わる。
- 社会課題解決や自然との共生を目指すSociety 5.0は、国連が採択したSDGsの達成にも貢献。変革の方向は軌を一にしている。
- Society 5.0 for SDGsの具体的な姿として、本提言で9の分野を例示。

Society 5.0

〔9の分野〕

- ①都市・地方
- ②エネルギー
- ③防災・減災
- ④ヘルスケア
- ⑤農業・食品
- ⑥物流
- ⑦ものづくり・サービス
- ⑧金融
- ⑨行政

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



出典：国連広報センター

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/

経団連はSDGsを支援しています。

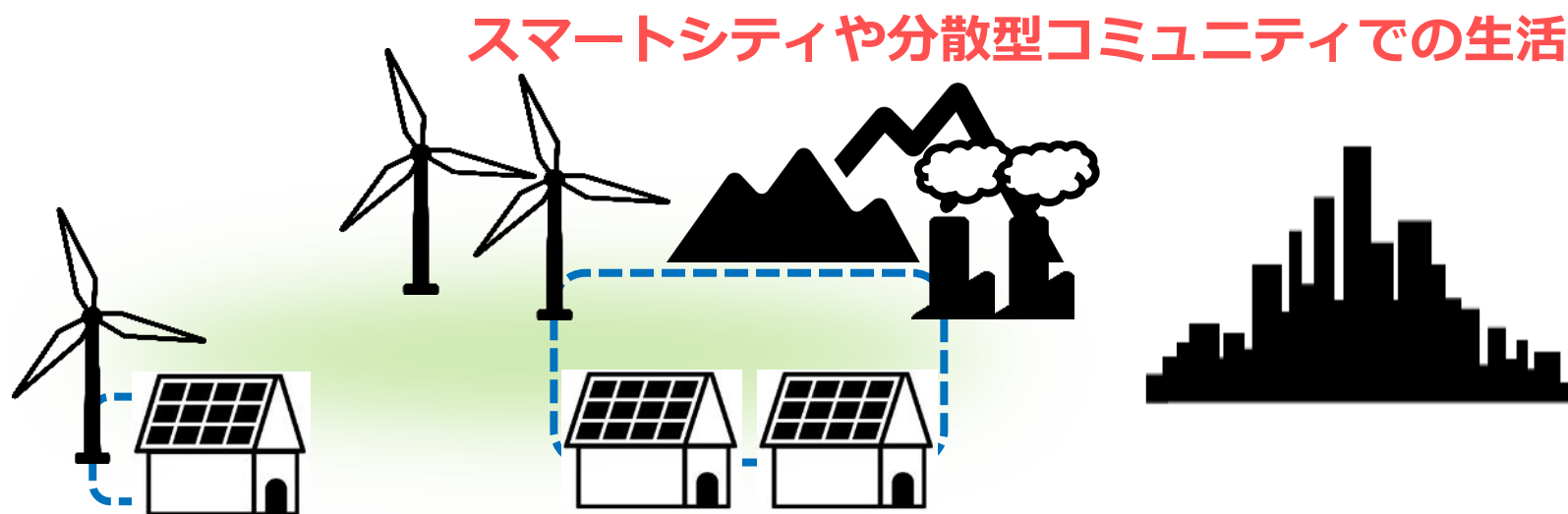
① Society 5.0時代の都市・地方

- 1 多様なデータを共有しスマートな都市を実現
- 2 人と自然が共生する自立した豊かな地方を実現
- 3 多様なライフスタイルを実現し、多様性が尊重



② Society 5.0時代のエネルギー

- 1 あらゆる地域で手ごろなエネルギーにアクセス
- 2 クリーンで持続可能なエネルギー供給
- 3 地域単位で需給を制御する分散型マイクログリッド



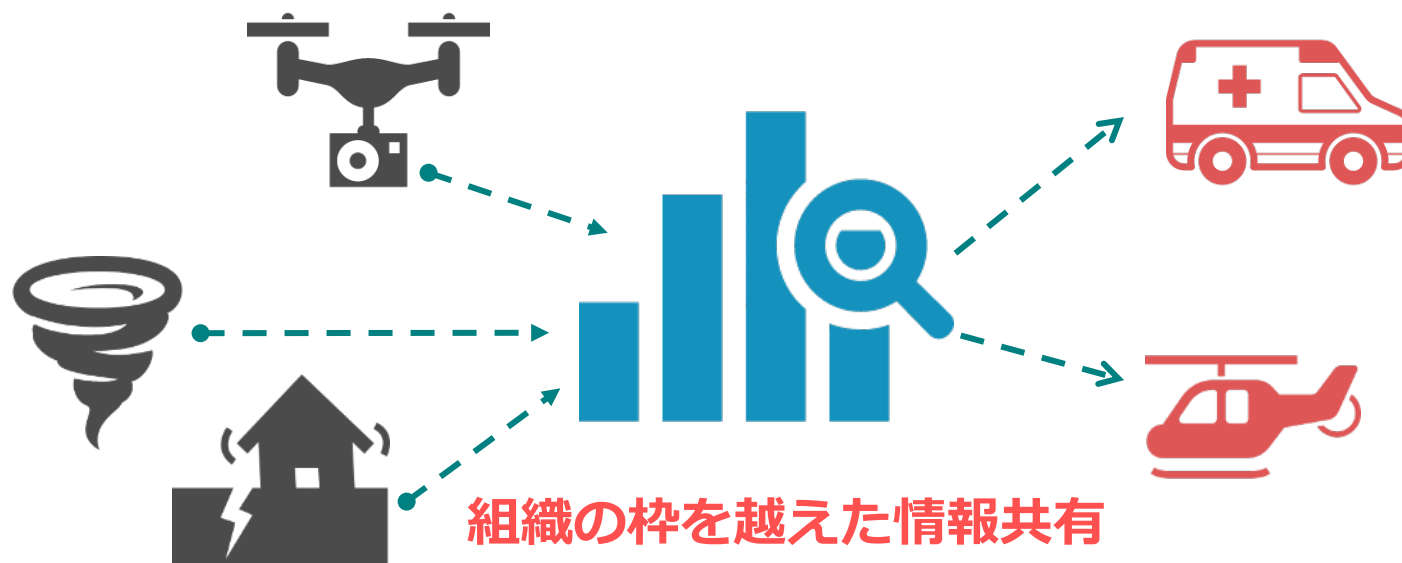
オフグリッド化もエネルギー利用の選択肢に

③ Society 5.0時代の防災・減災

- 1 組織の枠を越えた情報共有による迅速な災害対応
- 2 デジタル技術を活かしたインフラ維持管理を実施
- 3 災害時の持続的な医療サービス提供

インフラ維持管理による減災

持続的な医療サービス提供

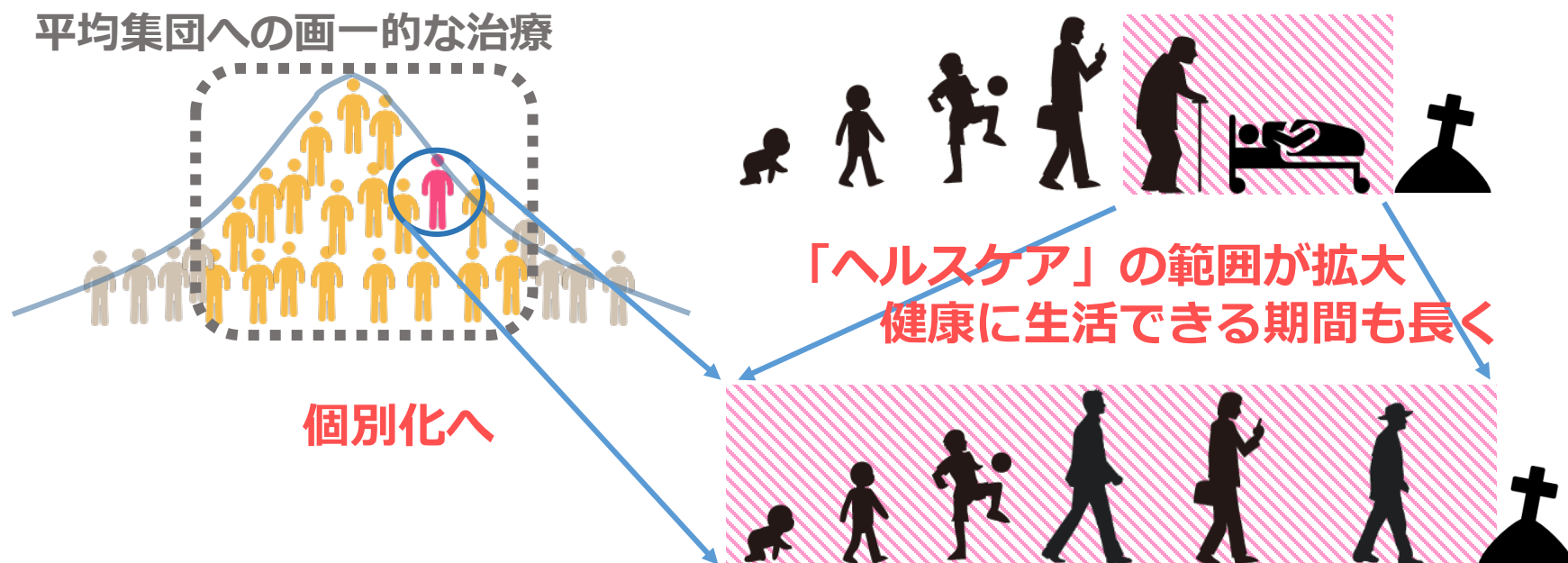


④ Society 5.0時代のヘルスケア

1 病気の治癒から未病ケア・予防へ

2 画一的な治療から個別化へ

3 個人が主体的に自分の健康を管理



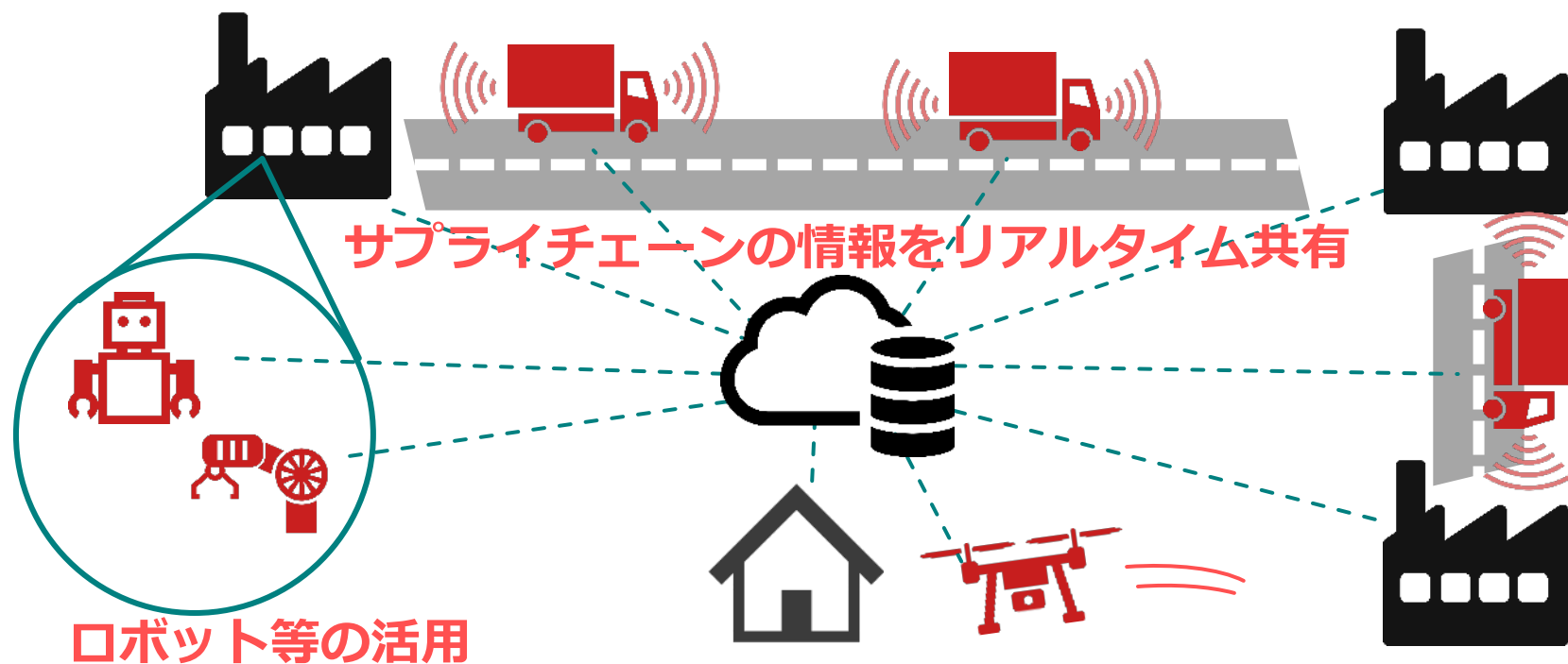
⑤ Society 5.0時代の農業・食品

- 1 最先端技術をフル活用・生産性が飛躍的に向上
- 2 フードバリューチェーン（FVC）が最適化
- 3 多様な経営体の参入により持続的に



⑥ Society 5.0時代の物流

- 1 サプライチェーン全体の情報の共有・最適化
- 2 自動走行、ドローン、ロボットが人員を代替
- 3 物流の枠を超えた新たな価値創造



⑦ Society 5.0時代のもものづくり・サービス

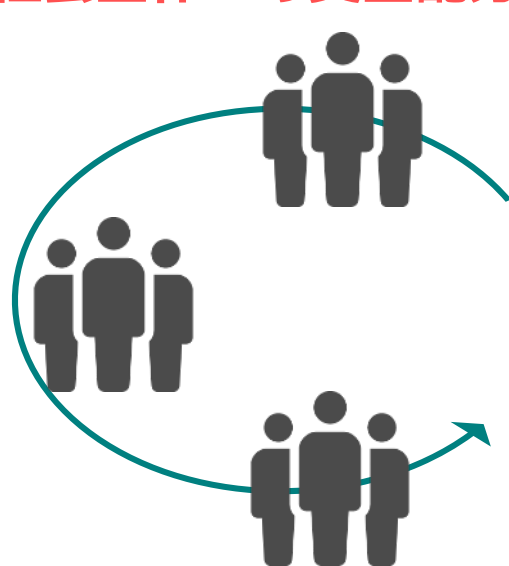
- 1 個人や小さな企業が多様な製品やサービス提供
- 2 自分の好みにあったモノが手軽に作れる
- 3 サービスを起点としたものづくり



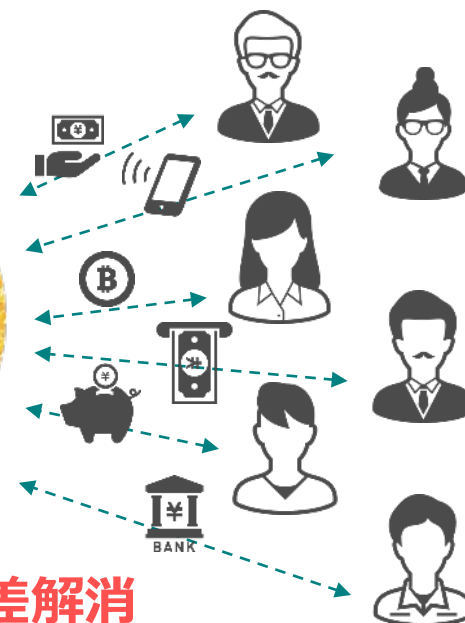
⑧ Society 5.0時代の金融

- 1 一人ひとりに合った多様な金融サービス
- 2 社会全体への効率的・効果的な資金配分
- 3 経済的な自立や生活水準の向上、所得格差の解消

社会全体への資金配分



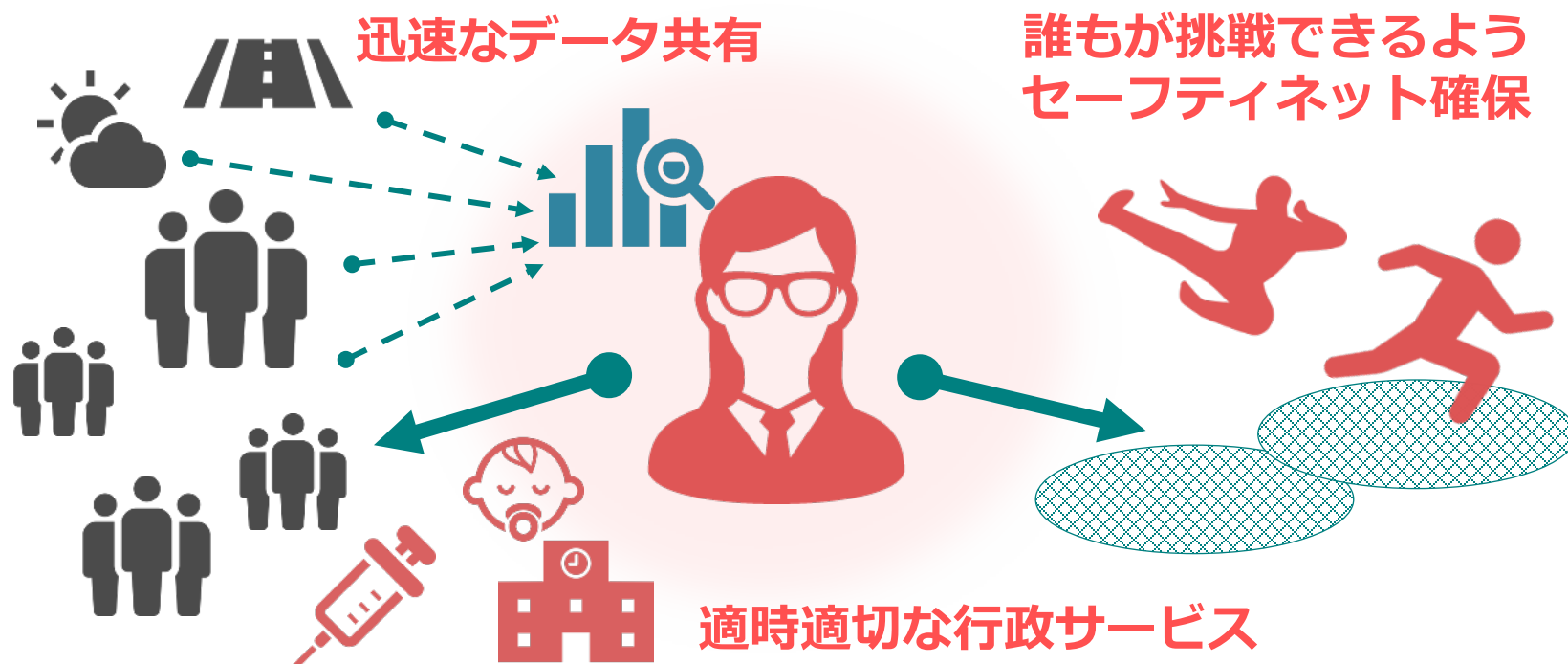
多様な金融サービス



経済的自立・所得格差解消

⑨ Society 5.0時代の行政

- 1 多様な主体でデータを共有し分析
- 2 保育所や学校などが適時適切なサービス提供
- 3 セーフティネットがあるので誰もが挑戦できる



Society 5.0の実現に向けて

Society 5.0は、**既存の枠や制約に縛られず**に、**誰もが創造力を発揮し、多様な価値を追求**できる社会。

17 パートナシップで
目標を達成しよう



Society 5.0の発案者である日本は、**世界中のあらゆる主体とのパートナーシップ**により、実現していく。

その過程で得られた課題解決のノウハウを世界に広め、**世界の持続可能な発展に貢献**することが私たちの使命と確信。



第2章

日本を解き放つアクションプラン

Action Plan for Unleashing Japan

日本が目指すべき姿

- Society 5.0を世界に先駆けて実現するために、日本が目指すべき姿は、デジタル革新を先導し、多様性を内包した、成功のプラットフォーム。多様な背景を持つ人々が日本で成功のきっかけをつかむ。

デジタル革新

AI×データの力を
人々が最大限に活用できるよう
変革への体制を整える
(AI-Ready化)

×

多様性の内包

日本のあらゆるところで
多様な背景をもった人々が
社会を変える挑戦を次々に行う
(あらゆる多様性の内包)

成功のプラットフォームとしての日本

多様な人々が日本でさまざまな挑戦を行い、成功のきっかけをつかむことで
日本から新たな価値が次々と創造され、それを通じてSociety 5.0を実現していく

強みを活かし、課題を機会に変える

- 深刻な課題を多く抱える日本は、課題解決先進国となることができる。
- 「Society 5.0 for SDGs」の国際標準化をリードすべき。

散らばる課題

少子化・高齢化、地方衰退、財政悪化、エネルギー問題等

日本の強み発揮

- ・ 社会を急変させた歴史
- ・ 課題を解決する持ち前の**想像力**
- ・ 新しいものを文化や言語に**取り入れて発展させる力**
- ・ 圧倒的な**キャッチアップ力**、学び続ける精神

課題解決主導の 機会

Society 5.0 for



- ・ 「Society 5.0 for SDGs」の世界的な普及
- ・ プラットフォーム化と国際標準化のリード
- ・ 実際のシステム開発と運用

変革のアクションプラン（1）

（1）企業が変わる

- ① 産業の高付加価値化
 - ・ 社会的価値の増大（SDGs達成への貢献）
 - ・ 一人ひとりが創造・享受する価値の増大
- ② 産業の新陳代謝・構造変革の促進
 - ・ 産業構造の抜本的改革
 - ・ イノベーションエコシステム
 - ・ スタートアップの振興
 - ・ 大企業による「出島」
- ③ 組織の変革
 - ・ Society 5.0時代の組織
 - ・ Society 5.0時代の働き方
 - ・ 日本型雇用慣行のモデルチェンジ

変革のアクションプラン（2）

（2）人が変わる

- ① 求められる人材
- ② 教育・人材育成への期待
 - ・ 方向性
 - ・ リテラシー
 - ・ 文理分断からの脱却
 - ・ 平等主義からの脱却（トップ人材の育成）
 - ・ リーダーシップ人材の育成
 - ・ リカレント教育

変革のアクションプラン（3）（4）

（3）行政・国土が変わる

- ① デジタル・ガバメントの構築
- ② 国土の分散化による多様性の推進

（4）データと技術で変わる

- ① AI駆動型産業への転換とデータ戦略
 - ・ フィジカル空間からサイバー空間への展開
 - ・ 多種多様なデータの共有
 - ・ データ関連ポリシーの確立
- ② 研究開発
 - ・ 研究開発へのリソース投入：
「選択と集中」から「戦略と創発」へ
 - ・ 戦略的研究
 - ・ 創発的研究
 - ・ 研究力再生

日本のエネルギー問題

課題を乗り越えSociety 5.0へ

課題①

化石燃料依存からの脱却

課題②

原子力の再稼働

課題③

再エネの主力電源化

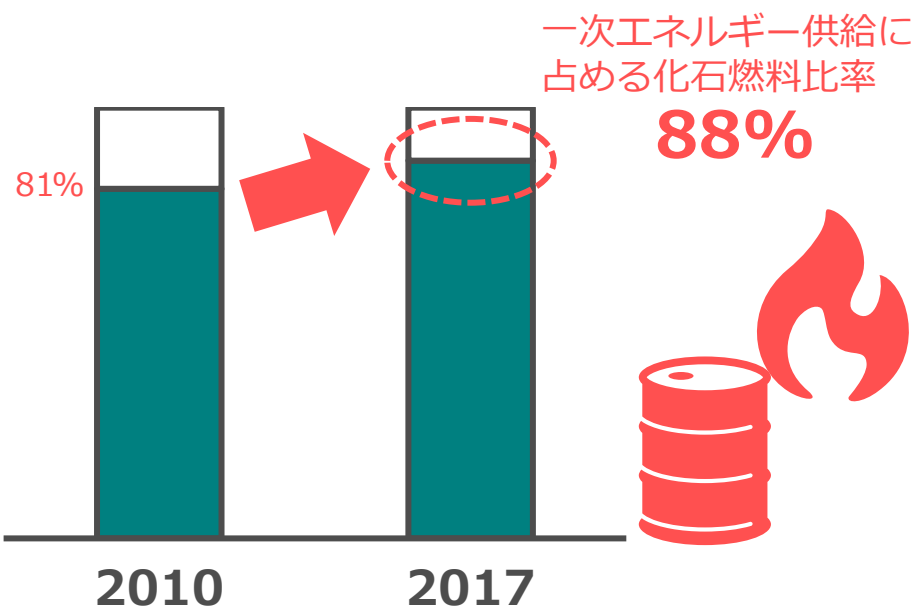
課題④

電力投資インセンティブの付与

- わが国のエネルギー政策は、東日本大震災後の再構築が遅れ、不透明感が払拭できていない。

課題①

化石燃料依存からの脱却



世界の期待に反し、化石燃料比率は上昇

課題②

原子力の再稼働

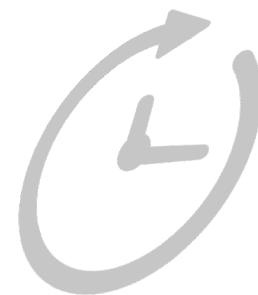
原子力発電所の稼働基数

2010 54基

2018 9基

2030
(target) 30基
程度

震災後8年経っても
再稼働は未だ低調



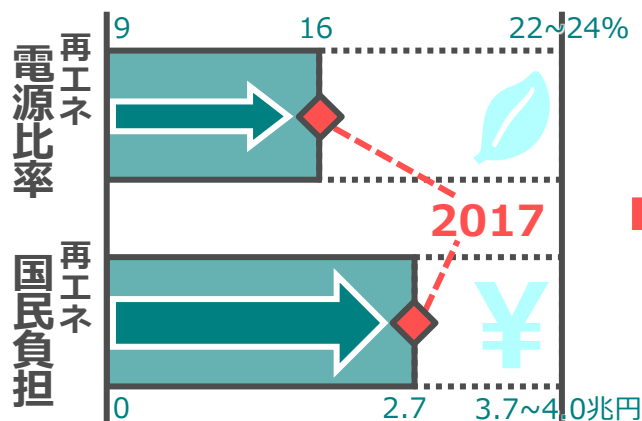
課題③

再エネの主力電源化

課題④

電力投資インセンティブの付与

2010 → 2030 (target)



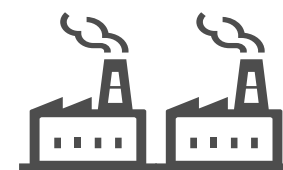
再エネの量は増えたものの、
高コスト

再エネ適地は偏在
↓
送る手段が必要



再エネだけでは安価で
安定した電気にならない
↓

発電設備が必要



投資を確保できる制度設計が必要

デジタル技術の活用等により、安価で安定したエネルギー供給と脱炭素化を
両立する「Society 5.0時代のエネルギーシステム」の構築を目指すべき。

